第二遊撃部隊（第五艦隊）
機動部隊本隊（第三艦隊全力）　内海西部

(2) 作戦任務

第一遊撃部隊　敵上陸點突入作戦
第二遊撃部隊　敵艦隊牽制作戦
機動部隊本隊

以上の様にこの捷號作戦の特徴は母艦航空兵力に依存せぬ作戦計畫であつた。即基地航空兵力の傘下に水上部隊を全幅に活動せしめんとする定石外れの構想であつたが「あ」號作戦で母艦航空兵力の大部を失つた日本海軍としては真に止むを得ぬ計畫であつた

第六經過概要

第三段作戦は昭和十八月三月二十五日大海指に依り聯合艦隊司令長官に示されたが聯合艦隊司令長官は同年八月十五日に至り始めてこれに關する命令を出し同日以後の作戦を第三段作戦と呼んだ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

然し實質的に第三段作戦即防衛作戦に轉換したのはガダルカナル島の撤退の時機である。

第一段作戦は開戦時の計畫に基き實施された所謂大東亞地域の攻略作戦であり第二段作戦は第一段作戦の成功に依り更にその地域を南太平洋及ハワイ方面に伸展し大東亞地域の防衛を一層容易にすると共に「攻撃は最良の防禦である」と謂ふ兵術の原則を實地に行はんとした作戦であつた

然し第二段作戦は先づミッドウエー海戦で最初の障害にぶつかりガダルカナルの攻防戦で決定的な段階に達した。即ち日本海軍は此等の戦闘で第一線兵力の多數特に精鋭な飛行機搭乗員と補助艦艇等の殆攻作戦に必要な兵力に大損害を蒙り作戦の主導性を完全に聯合軍に奪われたのである

この時機以後終戦迄の經過は日本軍にとつては全く受動的な作戦に終始せざるを得なくなつたのである

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三段作戦の經過はその主作戦で區分すると四段階に別けることが出來る第一段はソロモン作戦、第二段は「あ」號作戦で最高潮に達した内南洋方面の戦闘、第三段は捷號作戦で代表される比島方面の戦闘、第四段は硫黄島、沖縄の攻防戦から終戦迄である

以下各段階別に經過の大要を概述する

一、ガダルカナル撤收（昭一八・二・一）ソロモン作戦終了（昭一九・一）

ガ島撤收作戦（「ケ」號作戦）は二月一日開始三次に亘り行はれ同七日撤收に成功した撤收人員はガ島一一、三一六名、ルッセル島三九〇名である。

この作戦に引續き實施されたのが東ニューギニヤ方面への兵力資材の輸送である。ウエワクに對しては二月下旬四次に亘り一三、六五七名の兵力を揚陸した

更に三月初頭ラエに對し増援兵力を輸送したが途中敵機の有效なる攻撃を受け船團全滅の悲運に遭遇した。その他東部ニューギニヤの

0613

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

各地中部ソロモン方面に對し續々と兵力輸送を實施し同方面の防備強化に努力した

然しその間敵機の防害甚しく同方面の防備強化に支障が大であつたので聯合艦隊では海軍航空兵力の主力をラボール方面に集中して四月上旬を期し航空撃滅戰を企圖した

この作戰には同方面基地航空兵力約二〇〇機に加へ母艦航空兵力約一五〇機を陸上基地に移動して使用し聯合艦隊司令長官及第三艦隊（母艦部隊）司令長官はラボールに進出してこの作戰を指揮した

この作戰は四月一日ラッセル島上空の戰鬪機群の遭遇戰に始まりツラギルンガ沖、ミルン灣、モレスビー等に對する航空攻撃を實施したが四月十六日この作戰を中止した。この時ラボールに在つた聯合艦隊司令長官山本五十六大將は四月十八日ブイン方面の基地視察に向ふ途中敵戰鬪機の攻撃を受け戰死した

北太平洋方面でもアッツ、キスカ方面の防備強化に伴い兵力の輸送

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

が行はれていたが輸送作戦支援中の第五艦隊は三月二十七日米艦隊とアッツ島西方海面で遭遇し玆にアッツ島沖海戦が生起した、その後アリューシャン日本占領地域に對する米軍の攻撃は激化していたが五月十二日米軍はアッツ島に上陸し來つた。アッツ島の日本軍は約半ケ月の防戦の後玉砕した、この全員戦死の報は日本國民に大きな衝動を與へた。キスカ島の日本軍はこの爲全く孤立の狀態に陥つたが七月末全員撤退した。

ソロモン方面ではその後兵力輸送と航空作戦が繰返されていたが六月末米軍のレンドバ島上陸が開始され戦場は中部ソロモンに移動した。

中部ソロモンの戦闘は十月初頭コロンバンガラ部隊の撤退迄滿三ケ月激戦が續けられその間日本側の兵力輸送に伴つて生起したクラ灣夜戦、コロンバンガラ島沖夜戦、ベラ灣夜戦等の海戦を始め連日激烈な航空戦が行はれガダルカナル島の戦闘に次ぐ激戦であつた

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

この方面の海戰の特徴は從來夜戰を得意とした日本海軍がその夜戰で甚大な被害を蒙り驅逐艦乘員の志氣を沮喪せしめた、この原因は敵の巧妙な電探兵器の活用に依るものと認められている

この間聯合艦隊新司令長官古賀峯一大將は八月十五日正式に第三段作戰への移行を命令し各外廓戰略要地に邀擊帶を設立しその基地航空兵力の傘下に邀擊戰を實施せんとする構想を明らかにした。

東ニューギニヤ方面では九月上旬ブル河、モレギ河方面に聯合軍の上陸ありラエ、サラモア方面の日本守備隊は陸路西方に轉進した

爾後同方面の戰線は逐次西方に移動した

昭和十八年十一月一日聯合軍は北ソロモンのブーゲンビル島に對する上陸作戰を開始したこの戰鬪は陸上戰鬪では大なる進展はなく同方面守備隊は終戰迄ブイン方面を保持したのであるが航空戰では六次に亘る所謂ボーゲンビル島沖航空戰が行はれた

同月二十一日ギルバート諸島方面に對する米軍の上陸作戰が開始さ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

れ聯合艦隊司令長官はかねての計畫に基つき「ヒ作戰發動」を令したが諸般の情勢からギルバート方面の敵に對しては飛行機潛水艦に依る作戰のみに止められた

十二月中旬聯合軍は遂に南東方面の日本軍根據地であるニューブリテン島の西方に上陸し來りラバールは全く孤立の情態に陷つた

當時同方面にあつた海軍基地航空兵力はブーゲンビル方面の作戰で兵力の消耗極めて大きかつたので昭和十九年一月には新たに母艦航空兵力の一部が進出し交代した

二、ケゼリン上陸（昭一九、二）

マリアナ失陷（昭一九、七）

日本はこの期間に內南洋の大部マーシャル、マリアナ及カロリン諸島の要地及ニューギニヤの大部とバルマヘラ北部を奪取されている

二月一日マーシャル諸島の中樞ケゼリン島に突如米軍の上陸が開始されたこの敵に對しソロモン方面の戰鬪で航空兵力を消耗した聯合艦隊は殆んど反擊の手段を持たなかつたかくてマーシャル群島の諸

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

島嶼基地は次々と米軍に奪取されたのである

二月十七日トラックに對して行はれた米機動部隊の大空襲は「第二の眞珠灣」と言はれた程の大損害を日本側に與へた

その被害は沈沒巡洋艦二隻、驅逐艦四隻、輸送船二十六隻、飛行機の喪失約百八十機に達した

海軍ではかねて戰訓に鑑み機動基地航空兵力として第一航空艦隊を編成し內地で訓練中であつたがこの情勢に即應するためこの兵力を急據テニヤン方面に進出せしめ又ラボール地區及南西方面からも航空兵力を內南洋へ轉用した

然し餘勢を驅つた新鋭の米機動部隊は遂にサイパン近海に出現して同島方面を空襲しマリアナ諸島一帶は非常な危險にさらされたこの時の米機動部隊は大型空母九隻を中心とするもので米海軍の新造艦多數が戰列に加つていることが明らかになつた

かくてマリアナ諸島の防備強化が焦眉の急となり新編成の中部太平

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

洋艦隊司令部がサイパンに進出すると共に「松」輸送と呼ばれた輸送作戦が開始されたこの時機（三月末）聯合軍はアドミラリチー諸島への上陸作戦を開始している

米機動部隊の兵力増加に反し日本海軍航空兵力の戦力低下は益々甚しく遂に米機動部隊は四月末内南洋の西端パラオ迄攻撃した

當時パラオは内南洋地域の唯一の安全泊地として聯合艦隊旗艦武蔵を始め補助艦艇の主力が碇泊していたがこれ等の艦艇の大部は避退に成功し輸送船十數隻が沈没した

聯合艦隊司令長官古賀峯一大將は旗艦武蔵を避退せしめた後自らは幕僚と共にパラオ陸上に移つたが三日間に亘る猛烈な機動部隊の攻撃に依り敵上陸の虞ありと感じ四月一日夜飛行艇に乗じダバオ方面に移動せんとしたが途中悪天候の爲乗艇行方不明となり玆に不運なる最後を遂げた

聯合艦隊司令部はこの事件の爲殆んど全滅に近い損害を蒙り指揮不

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

能となつたので聯合艦隊の指揮は一時次席指揮官である南西方面艦隊司令長官高須四郎大將が繼承した

進攻速度の增した聯合軍は四月二十二日ニューギニヤ方面で新たな上陸作戰を開始したワエワク地區の日本軍の防備强大な地區を通過して當時はまだ後方基地的性格であつたホーランヂヤに寄襲的上陸を決行したのである

この敵に對し海軍としては僅かにマリアナ方面の航空兵力を濠北方面に分派して對應したのみで當時ホーランヂヤに司令部を置きニューギニヤ方面の作戰を指揮していた第九艦隊司令部は一擧に壞亂した

五月三日大本營は「聯合艦隊の準據すべき當面の作戰方針」として艦隊の決戰を要求する指示をしたこれが「あ」號作戰計畫である當時日本海軍の海上決戰兵力は馬來半島南方リンガ泊地で銳意訓練中であつたが五月二十日「あ」號作戰配備に就き主力はスル列島タ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ウイタウイ灣に集結を完了したこれはトラックを根據として計畫された作戰が遂に實施の機を得なかつたので海上決戰として第二次に計畫された作戰で新らしく編成した母艦兵力と新鋭陸上爆撃機を中心とした機動基地航空兵力をその主兵とするものであつたこの作戰を指揮する新聯合艦隊司令長官豊田副武大將は五月二十二日旗艦大淀に搭乘し東京灣發瀬戸内海桂島水道に向つた

ニューギニア北岸沿いの聯合軍進出速度は愈々急であつて五月下旬にはビアクに上陸し來つた當時日本側はビアク島の戰略的價値に着目し航空基地の構築を開始していたが未完成のうちに進攻される結果となつた當時ビアク、パラオ、ダバオ、ハルマヘラを結ぶ地域を四角要塞と稱えていたのであるがそれ程ビアクは濠北一帶及パラオ比島南部に對する作戰基地として重視されていたそこで萬難を排しビアク防衛の必要を感じ日本軍は新編成の海上機動旅團をこれに輸送し同島を確保せんとし所謂「渾」作戰を實施した

0621

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

この作戦は「あ」號作戦の爲比島南部に展開していた海上部隊の一部たる戦艦二隻を中心として計畫されたが米機動部隊に對する顧慮もあり所望の兵力も充當することが出來なかつた

海上部隊は五月八日作戦行動を開始したが敵の妨害に依り中途で引歸した日本海軍は四月以來マーシヤル群島メジユロ泊地が米軍の主力機動部隊の根據地となつている事實を偵知し同地所在兵力の動靜に深甚な注意を拂つていたが五月上旬その兵力增加の兆あるを知り主力部隊は着々と「あ」號作戦準備を進めていた

五月十日米機動部隊出動の兆を偵知した日本海軍は五月十日「あ」號作戦決戦準備を下命した

果然翌十一日マリアナ一帯に機動部隊の來襲があり十二日に至り米軍のマリアナ方面攻略企圖が明確になつたかくて日本機動部隊は十三日タウイタウイ灣出撃十四日には比島ギマラス泊地に入泊したが翌十五日米軍は遂にサイパン島に上陸を開始したそこで聯合艦隊司

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

令長官は十五日「あ」號作戰決戰の發動を令した

この時の聯合艦隊司令長官の企圖は先づ基地航空部隊を以つて挺身攻擊を加へつゝ機動部隊の進出を待ち本州配備航空兵力の大部を一擧に投入（この作戰を「東」號作戰と呼んだ）し機動部隊兵力と基地航空兵力の全力を以つて一擧に敵機動部隊と決戰せんとするものであつた

この決戰は日本海軍としてはミドウエー海戰以後の大規模な作戰で作戰に參加したものはガダルカナル以後の不振を一擧に挽回すべく日本の興廢との一戰にありとし志氣大いに振つたのであつた

渾作戰は「あ」號作戰開始と共に一時中止の已むなきに至つた

十八日彼我機動部隊觸接し十九日日本機動部隊主力はヤップ島北方に占位し第三航空戰隊をヤップ島北東方に分派し攻擊を開始した

ところが機動部隊の主力であつた大鳳、翔鶴の二艦は米潛水艦の攻擊を受け沈沒し航空攻擊の成果も充分ではなくガム島を中繼基地と

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

して行つた航空攻撃も失敗に終つた

十九日夕刻日本機動部隊は一應反轉北上敵と一時離隔した二十日敵機動部隊の追撃を受け再び航空戦が展開せられたがこの日更に空母飛鷹を失ひ殘存母艦航空兵力僅かに二十五機となつた

二十一日聯合艦隊司令長官は遂に機動艦隊に避退を下令し「あ」號作戦は終了した

その間にサイパン島上の戦況は漸次日本軍の不利に傾き二十二日その歸趨既に決した情況である「あ」號作戦に參加した第二艦隊及第三艦隊は中城湾で補給の上内海西部に入泊した

又この作戦の前後我が潜水艦の被害特に増加したので聯合艦隊司令長官は先遣部隊に對しマリアナ邀撃戦は現配備潜水艦及中型潜水艦を以つて行いその他の潜水艦は直に被害防止對策を行ふべく命令した

尙内海西部に集結した機動部隊中第二艦隊は修理艦艇の外七月上旬

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

リンガ泊地に進出し訓練に從事し第三艦隊は母艦航空兵力再建及艦艇修理の爲當分内地に留ることとなつた

七月五日サイパン所在部隊は玉砕する旨の最後電を發したが當時サイパン島には次の通多數の司令部が集中していた

中部太平洋方面艦隊司令部、第六艦隊司令部、第三水雷戰隊司令部、第一聯合通信隊司令部、第五根據地隊司令部

三、昭和十九年八月一比島戰終了（昭二〇、一）

サイパンの失陷に依り日本本土方面に對する米機の空襲激化は必至の情勢となつたので内地の陸海軍航空部隊は統一指揮の下に作戰することゝなり横須賀、吳、佐世保方面防空主任務航空部隊は七月二十一日防衛總司令官（陸軍）の作戰指揮下に入つた

又ニューギニヤ及内南洋方面の戰況に鑑み聯合軍の次期進攻目標は比島であることが段々明瞭となつて來たので今迄スラバヤに在つて東西兩方面の作戰に備えていた南西方面艦隊司令長官は七月十二日

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

その司令部をマニラに移し主力を比島の防衛に注ぐことゝなつた七月二十一日大本營はマリアナ、ビアク失陷の新情勢に依り新らしい情況判斷を行つた結果「聯合艦隊當面の作戰方針」として所謂捷號作戰計畫の大綱を指示した

この作戰計畫では比島の防衛を最重視し同年十月中に戰備を完成し我が基地航空機の威力圏内に於て集中可能の海空全兵力を集中し敵を邀撃せんとするものであつた

この大海指に對し聯合艦隊司令長官は八月初頭捷號作戰要綱を定め比島東方海面に於て生起を豫想された邀撃戰に對する復案を示した又この時機に於て聯合艦隊司令長官は作戰（捷號作戰、海上交通保護等）に關し海上護衛部隊及鎮守府、警備府部隊を指揮する如く定められた

八月になつてから敵潛に依る被害が激增し南方からの重要物資の輸送及南方に對する緊急戰備は重大な脅威を受け戰局の前途に對し暗

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

影を投じた八月以後比島方面に對する戰備は急激に增强せられ特に航空基地及航空兵力の增强には日本戰力の大部を注入せられたのであるがそれ迄殆んど手をつけてなかつた比島の戰備の完成には種々の困難が横はつていた基地航空兵力は日本海軍の捷號作戰の主兵であつて八月再編第一航空艦隊が比島に配備された外直ちに比島に進出出來る態勢で沖繩、臺灣方面に第二航空艦隊が待機していた一方海上決戰兵力は武藏、大和を中心とする遊擊部隊は既にリンガ泊地に進出訓練中であつてその後舊戰艦山城、扶桑が新たに第二戰隊として遊擊部隊に編入されリンガ泊地に進出した

母艦部隊は飛行機隊の練成の爲內地にあつたが第三航空戰隊の飛行機隊のみは決戰參加の見込みがあつたので水上爆擊機十數機を搭載した舊戰艦改造母艦伊勢、日向を以つて編成した第四航空戰隊と共に決戰參加の機を待つていた

米軍の比島作戰は九月中旬かねての豫想通りパラオ、ハルマヘラ方

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

面の上陸で開始された、この時行はれた米機動部隊の中襲は戦備尚不充分な日本側航空兵力に大打撃を與へその後米機動部隊の連續的攻撃で比島方面の制空權は既に米機動部隊に握られるに至り日本航空部隊は兵力温存的作戦に墮したのである

十月十日沖縄に次いで臺灣に來襲した米機動部隊は米軍の比島上陸作戦の前驅であつたが聯合艦隊は敵機動部隊捕捉撃滅の好機至れりと判斷し決戦に準備した基地航空兵力及母艦航空兵力の主力を以つて「基地航空部隊捷號作戦發動」を下令したこの作戦で米機動部隊の大群に對し數次に亘る空襲を決行し一時は大戦果を報ぜられたが實際の戦果は案外尠く爾後の戦局に悪影響を與へた

十月十七日レイテ灣頭スルアン島日本軍見張所から敵上陸の報告があり茲に捷一號作戦が開始された

この作戦は今次大戦最後の大海戦でその規模の大きなことは空前のものである

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

日本艦隊の主力はリンガ泊地から出動し途中二隊に分れ一隊は比島中部を横斷しサンベルナルヂノ海峽を突破しレイテ灣に迫り一隊はスリガオ海峽を突破しレイテ灣に向つた

又母艦部隊は僅かの搭載機を以つて牽制作戰の爲日本本土から一路南下比島東方海面に進出した

日本艦隊の作戰目的はレイテ灣在泊の上陸船團の撃滅であつた

一方艦隊作戰の有力な支援となるべき基地航空部隊は臺灣沖の航空戰でその精鋭部隊を失つていたが第二航空艦隊司令長官は十月二十二日主力を率い比島に進出し二十四日を期し總攻撃を開始した

然し航空戰は各種の障害を受け意の如く進展せずシブヤン海を東進中の遊撃部隊は敵機動部隊の攻撃を受け重大な損害を蒙つた

そこで遊撃部隊は一時進撃に疑念を抱いたが聯合艦隊司令長官は「天佑を確信し全軍突撃せよ」の命令を發しこゝに十月二十五日サマール島沖の海戰、スリガオ海峽の海戰及エンガノ沖の海戰の三海戰

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

が生起した

北方から南下した空母部隊は勇敢に北島東方海面に接近したが米機動部隊はこれを發見し全力を擧げて北上し來り遂に飛行機隊を持たぬ日本空母四隻は沈沒した然しこの空母の犠牲は日本艦隊の戰略目的を達しその間隙に乘じ遊擊部隊はレイテ灣頭迄近接することが出來た

ところが二十五日黎明時レイテ灣頭で遊擊部隊は米護衛空母群と遭遇しこれと交戰するうちに戰機を失し且米機動部隊の來援の虞あるを顧慮し遂に第一の戰略目的たるレイテ灣突入を斷念して引き揚げるに至つた

スリガオ海峽からレイテ灣に突入を企圖した舊式戰艦を主力とした部隊は同海峽で米軍に邀擊され不運なる敗戰となり殆んど全滅した

かくて日本艦隊の最後の一戰は不成功に終り爾後堂々たる海上決戰は再び實施不可能なる迄の大打擊を受けた

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

海上決戰に失敗した日本海軍はその後基地航空部隊の散發的な攻擊でレイテ方面の敵增援阻止を企圖したこの頃航空攻擊に自信を失つた航空部隊は遂に必中攻擊の爲特別攻擊と稱する最後的戰法を採用した

然し日本側は陸戰に依りレイテの米軍を擊破すべく十一月に入つて續々と陸軍をレイテ島に輸送した

この輸送作戰は「多一號作戰」と稱し十二月中旬迄九次に亘り實施されたが航空兵力の差に依り逐次輸送中の損害を增加し陸上の戰況又意の如くならず十二月中旬遂にレイテ增援作戰中止のやむなきに至つた

レイテ島を確保した米軍は十二月中旬日本側の豫想に反し一擧にミンドロ島に上陸した然しこの頃日本側は米軍の大船團の進出を手に取る如く偵知しつゝも少兵力を以てする特攻の外有效なる攻擊は殆んど與へることは出來なかつた

0631

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

この頃水上部隊も志氣地に墮ちミンドロ沖の米船團の攻撃を下令された驅逐隊は戰意尠く同月二十六日漸く巡洋艦を加へた一部兵力を以つてサンホセ沖に突入した（禮號作戰）

十二月下旬大本營は帝國陸海軍爾後の作戰方針を策定した

それは先つ敵は翌年早々北部比島方面に來攻すべしと判斷し捷一號作戰の重點をルソン島に變更して米軍に對し一大出血作戰を强要せんとするものであつた

一月米軍の大兵力がリンガエン灣から上陸して以後比島の海軍兵力の大部は固有の作戰任務の遂行不可能となり陸上作戰に關し比島方面陸軍最高指揮官の指揮下に入つた

四硫黄島上陸（昭二〇、二）―終戰

昭和二十年一月十八日大本營は帝國陸海軍作戰計畫變更案を策定したがその大要は次の通である

(イ)敵情判斷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

比島要域を據點として東南支那周邊に向ふ算最も大で次いで硫黄島攻略を企圖する算あり日本本土侵攻は本年秋期以降となるべし

(ロ) 今後の作戰方針

(一) 本土及その防衛に必要な大陸要域の邀擊態勢確立

(二) 航空戰力の整備

(三) 比島方面は敵戰力の牽制抑止

(四) 敵機動部隊に對しては好機を捉へ漸減を圖る

マリアナ方面を基地とする米大型爆擊機の日本本土空襲は十二月中旬から漸く積極化した

二月十六日以來硫黄島を攻擊していた米軍は同十九日遂に同島に上陸して來た

硫黄島の守備兵力は海軍一〇〇〇名、陸軍二三〇〇名であつたが上陸軍を邀え激戰を展開し約一ケ月に亘り戰鬪した

然し遂に米軍 p-51 長距離戰鬪機は三月二十一日硫黄島基地に進出し

五三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

爾後マリアナ方面のB29と共に日本本土空襲の主力となつた三月十八日西日本一帶に米機動部隊の空襲があつて翌十九日に呉軍港在泊の艦艇に大被害を蒙つた

かくするうちに同月二十五日米軍は沖縄方面の上陸作戦を開始したので「天一號作戦警戒」が發令された

沖縄方島に對する米軍の本格的上陸は四月一日開始された

これに對し海軍は陸軍と協同し四月六日約三〇〇機を以つて航空總攻撃を行つた次で八日戦艦大和を中心とする水上艦艇を以つて決死的突入作戦を行つたが途中機動部隊の攻撃を受け不成功に終つた

沖縄に對する航空攻撃はその後菊水作戦と稱し特攻を主体とし毎回相當の兵力を以つて六月下旬迄十次に亘り實施された

この沖縄戦に對しては海軍としては最後の艦艇、最後の飛行機を使用し二ヶ月有餘すべて特攻に終始し陸上戦に協力したが六月に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

入り遂に大勢は決せられた

本土方面に對する敵の空襲は六月中旬敵が沖縄及硫黄島の基地を本格的に使用するに至り内地各地の被害は急激に増加しそれ迄は大都市及軍需關係施設に限られていた空襲が中小都市攻撃に移行して行つた

この頃南方では比島各地の日本軍は山中深く撃退せられ戦力の大半を喪失し聯合軍は七月一日東ボルネオ方面に新たな上陸作戦を開始しビルマ戦線は日本軍の大敗に終りシンガポール方面の防備強化に努力中であつた又西方資源地域と日本本土との海上交通は昭和二十年一月以後杜絶していた

七月初頭大本營は聯合軍の本土上陸作戦に備え「決」號作戦航空兵力展開案を策定した

その頃沖縄方面に兵力の集中顕著であつたので七月六日大本營は敵が南西諸島又は中支方面に新作戦開始の算大と判断しこれに對

0635

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

する作戰方針として敵機動部隊に對しては兵力溫存を主とし攻略部隊に對しては一部兵力を以つて對處することに決めていた

七月に入つて日本各地は機動部隊の艦水上艦艇の砲撃を受くるに至り日本側の戰力低下はその極に達した

當時七月十日から同十八日迄に關東以北の航空基地に對する米機動部隊の來襲延機數は一六三〇機で日本側の所在總機數は一四〇〇機、內被害大破七八、中小破一九六であつた

又七月十九日から同二十八日迄の我が航空基地に對する延來襲機數は一四〇〇であつて日本側の所在機數二六六〇機、內被害大破一三、中小破三一となり兵力溫存の目的を達していた

この情勢のもと七月二十六日米英支三國の對日ポツダム宣言あり八月六日廣島に同九日長崎に原子爆彈が投下され又九日にはソヴエト聯邦の對日宣戰布告あり十五日終戰の大詔渙發となつた

即時戰鬪行動停止の命令が出たのは八月十七日である

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan